

「三重県認知症施策推進計画」最終案に対する委員意見をふまえた修正案について

番号	項目	最終案該当頁	意見の概要	最終案の修正案	最終案
1	第1章 計画策定の基本方針	P3(上から4番目の○)	<p>2 計画のめざすべき方向性 2段落目 県民一人ひとりが認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深め、自分ごととして捉えることで、認知症に関する誤解や偏見をなくすため、国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観～(以下変更なし)」</p> <p>理由：国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観」であることを明確にするためです。「新しい認知症観」は、この後何度も出てくるので、「新しい認知症観」をどこかに定義して表記した方がよいと思いましたので提案します。</p>	<p>○県民一人ひとりが認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深め、自分ごととして捉えることで、認知症に関する誤解や偏見をなくすため、<u>国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられている「新しい認知症観(認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方)」を、認知症の本人が語る姿など、様々な機会を通じて啓発します。</u></p>	<p>○県民一人ひとりが認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深め、自分ごととして捉えることで、認知症に関する誤解や偏見をなくすため、「新しい認知症観(認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方)」を、認知症の本人が語る姿など、様々な機会を通じて啓発します。</p>
2	1 認知症の人に関する県民の理解の増進等	P21(上から5番目の○)	<p>(2)社会教育における認知症に関する知識及び認知症に関する理解を深める教育の推進 (現状と課題) 1段落目は、「新しい認知症観」の説明なので、表記方法を改めるか、3頁との連動をした方がよいのではないかと思います。</p>	<p>○<u>いまだ根強く残る認知症に関する誤解や偏見をなくすため、「新しい認知症観」を、県民一人ひとりが理解し、自分ごととして捉えることが重要です。</u></p>	<p>○国の認知症施策推進基本計画では、「新しい認知症観」を「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方」としています。</p>

「三重県認知症施策推進計画」最終案に対する委員意見をふまえた修正案について

番号	項目	最終案 該当頁	意見の概要	最終案の修正案	最終案
3	第3章 基本指 標及び施策体 系	P15(上 から1番 目の○)	<p>(認知症の人や家族等が地域で自分らしく生活できるようにする)</p> <p>1段落目 共生社会の実現に向け、基本理念に沿って施策を推進していくに当たり、誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え、認知症の人や家族等、保健医療福祉の関係者だけでなく、<u>広く県民が、認知症になっても一人一人が個人として尊重され、希望を持って自分らしく暮らし続けられるという「新しい認知症観」(3頁参照)を理解する必要があります。</u>そして、認知症の人と家族等の参画・対話を基に、施策を立案、実施、評価し、地域住民、教育関係者、企業等地域の多様な主体が「新しい認知症観」に立ち、それぞれ自分ごととして、連携・協働して<u>施策</u>に取り組む必要があります。</p> <p>理由：国の「認知症施策推進基本計画」の前文に掲げられた「新しい認知症観」に立って、基本目標が施策と結びついていることを明確にするためです。 ・「一人一人が個人として」「尊重」の挿入 認知症の方という診断名で一括りにするのではなく、その人の人格や人生の継続性を尊重することを強調しました。16頁からの基本的施策や、第4章の具体的な取組にある「意思決定支援」や「相談体制の整備」「生活の質の向上」などとのつながりがより強固になると思います。</p>	<p>(認知症の人や家族等が地域で自分らしく生活できるようにする)</p> <p>○ 共生社会の実現に向け、基本理念に沿って施策を推進していくに当たり、誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え、認知症の人や家族等、保健医療福祉の関係者だけでなく、<u>広く県民が、認知症になっても一人一人が個人として尊重され、希望を持って自分らしく暮らし続けられるという「新しい認知症観」を理解する必要があります。</u>そして、認知症の人と家族等の参画・対話を基に、施策を立案、実施、評価し、地域住民、教育関係者、企業等地域の多様な主体が「新しい認知症観」に立ち、それぞれ自分ごととして、<u>認知症施策の実施に連携・協働して</u>取り組む必要があります。</p>	<p>(認知症の人や家族等が地域で自分らしく生活できるようにする)</p> <p>○ 共生社会の実現に向け、基本理念に沿って施策を推進していくに当たり、誰もが認知症になり得ることを前提に、自分ごととして認知症について考え、認知症の人や家族等、保健医療福祉の関係者だけでなく、<u>広く県民が「新しい認知症観」を理解する必要があります。</u>そして、認知症の人と家族等の参画・対話を基に、施策を立案、実施、評価し、地域住民、教育関係者、企業等地域の多様な主体が「新しい認知症観」に立ち、それぞれ自分ごととして、<u>連携・協働して</u>施策に取り組む必要があります。</p>

「三重県認知症施策推進計画」最終案に対する委員意見をふまえた修正案について

番号	項目	最終案 該当頁	意見の概要	最終案の修正案	最終案
4	第3章 基本指 標及び施策体 系	P15(上 から2番 目の○)	<p>2段落目 認知症の人がその個性や能力を発揮でき、希望を実現しながら、本人が希望する場所で新たな仲間等とつながり、これまで培ってきた<u>生活の中で友人関係や地域社会との絆</u>つなぎを持ち続け、<u>自らの人生を大切に</u>し、地域で安心して自分らしく生活できるようにすること、また、家族等も同様に仕事や生活を営むことができるようことを意識して取り組んでいくことが重要です。特に、<u>周囲とのつながりが断たれることによる孤立を防ぎ、社会の一員として参画し続けられる環境づくりを推進します。</u></p> <p>理由：「仲間等とつながり」の明記 国の「新しい認知症観」にある「仲間等とつながりながら」という言葉を明記しました。単に「本人だけが頑張る」のではなく、地域社会・コミュニティの中での「関係性の維持」が共生社会の柱であることを示しています。</p> <p>・「孤立防止」と「参画」の挿入 「地域の人も精一杯で頼れない」という現場の声を意識し、「孤立を防ぐ」「参画し続けられる環境づくり」という表現を加えました。これにより、第4章の具体的な取組にある「チームオレンジ」や「通いの場」といった具体的施策の必要性がより明確になると思います。</p>	<p>認知症の人がその個性や能力を発揮でき、希望を実現しながら、本人が希望する<u>場所で新たな仲間等とつながり</u>、これまで培ってきた友人関係や地域社会との絆を持ち続け、<u>自らの人生を大切に</u>し、地域で安心して自分らしく生活できるようにすること、また、家族等も同様に仕事や生活を営むことができるようことを意識して取り組んでいくことが重要です。特に、<u>周囲とのつながりが断たれることによる孤立を防ぎ、社会の一員として参画し続けられる環境づくりを推進します。</u></p>	<p>認知症の人がその個性や能力を発揮でき、希望を実現しながらこれまでの生活の中で培ってきた友人関係や地域とのつながりを持ち続け、自分の人生を大切にし、地域で安心して自分らしく生活できるようにすること、また、家族等も同様に仕事や生活を営むことができるようことを意識して取り組んでいくことが重要です。</p>

「三重県認知症施策推進計画」最終案に対する委員意見をふまえた修正案について

番号	項目	最終案該当頁	意見の概要	最終案の修正案	最終案	
5	1 認知症の人に関する県民の理解の増進等	P23(上から8番目の○)	<p>今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人による相談支援である、ピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等による発信の支援を推進します。</p> <p>理由：1行目と2行目の「認知症の人」に対して、3行目は「認知症の人や家族等」となっています。ピアサポート活動はどちらも有効と思われます。同じ表現でよいように思います。あるいは別の意図があるのであれば修正なしになります。</p>	<p>今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人や家族に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人同士、家族同士による相談支援であるピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等による発信の支援を推進します。</p> <p>また、住み慣れた地域で仲間等とつながりあえるピアサポート活動が、市町において開催されるよう支援します。</p>	<p>今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人による相談支援であるピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等による発信の支援を推進します。</p> <p>また、住み慣れた地域で仲間等とつながりあえるピアサポート活動が、市町において開催されるよう支援します。</p>	
	3 認知症の人の社会参加の機会の確保等	※上記に関連P39(上から4番目の○)		<p>今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人や家族に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人同士、家族同士による相談支援であるピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等による発信の支援を推進します。</p> <p>また、住み慣れた地域で仲間等とつながりあえるピアサポート活動が、市町において開催されるよう支援します。(再掲)</p>	<p>今後の生活の見通しなどに不安を抱えている認知症の人に対して、精神的な負担の軽減と社会参加の促進を図るため、認知症の人による相談支援であるピアサポート活動を開催し、認知症の人や家族等による発信の支援を推進します。</p> <p>また、住み慣れた地域で仲間等とつながりあえるピアサポート活動が、市町において開催されるよう支援します。(再掲)</p>	
	5 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等	※上記に関連P57(上から3番目の○)				
	6 相談体制の整備等	※上記に関連P65(上から6番目の○)				

「三重県認知症施策推進計画」最終案に対する委員意見をふまえた修正案について

番号	項目	最終案 該当頁	意見の概要	最終案の修正案	最終案
6	4 認知症の人の社会参加の機会の確保等	P44 コラム	<p>(有償ボランティア)の表記 洗車活動(有償活動)、有償の社会貢献活動、有償の洗車協力活動、ボランティア(実費支給)などではいかがでしょうか。 例えば、見出しに「認知症の人が行う洗車協力活動(社会貢献活動)」とし、本文には「ボランティア(実費相当の謝金あり)」と記載を入れるのはいかがでしょうか。</p> <p>理由:「無償」であるはずのボランティアに「有償」がつくのは矛盾しているのでは?との指摘を受ける可能性があります。一方、労働とは異なることを明記する必要もあると思います。よって、ボランティアや社会貢献活動であるが、一定の謝金等実費が担保されていることを表せればよいと思いました。 なお、3,000円とは、一人あたりではなく、4台で3,000円の謝金という理解でよろしいでしょうか。 そうであるならば、「※いただいた謝金(3,000円/4台)は、活動の実費(資材費等)に充当いたしています。」と注釈をつけてもよいと思います。</p>	<p>【コラム】認知症の人が行う洗車活動 鈴鹿市にある運送会社では、若年性認知症の人も含め認知症の人が月1回の洗車活動に取り組んでいます。活動には10名前後が参加し、4台程度の車の洗車を行い、3,000円の謝金を受け取っています。</p>	<p>【コラム】認知症の人が行う洗車活動(有償ボランティア) 鈴鹿市にある運送会社では、若年性認知症の人も含め認知症の人が月1回の洗車活動(有償ボランティア)に取り組んでいます。活動には10名前後が参加し、4台の車の洗車を行い、3,000円の謝金を受け取っています。</p>
	4 認知症の人の社会参加の機会の確保等	上記に関連してP41(上から1番目の○)		<p>介護サービス事業所等において、認知症の人をはじめとする利用者が謝礼等を受け取ることもできる社会参加や社会貢献の活動を行う取組を支援します。</p>	<p>介護サービス事業所等において、認知症の人をはじめとする利用者による有償ボランティアを含めた社会参加や社会貢献の活動を行う取組を支援します。</p>
	4 認知症の人の社会参加の機会の確保等	上記に関連してP43(上から5番目の○)			<p>介護サービス事業所等において、認知症の人をはじめとする利用者が謝礼等を受け取ることもできる社会参加や社会貢献の活動を行う取組を支援します。(再掲)</p>